

ぐびろが丘



編集長 本田 徳鷹 (医学部メディア部)

編集部 長崎大学医学部ぐびろが丘編集部
長崎医学同窓会
〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号
☎095-848-5484
E-mail: ryojun-do@med.nagasaki-u.ac.jp

印刷 日本紙工印刷株式会社

6年生と臨床系教授との親睦会のご報告

6年 江原 大輔

今年も臨床系教授の先生方と6年生とを交えた親睦会が宝来軒別館にて開かれた。

謝恩会学生代表のあがり気味の司会から和やかな空気が生まれ、医学部長の松山教授、当時医療教育開発センター長をされていた前村教授からそれぞれの教育にかける熱意に溢れたあいさつがあり、そして安武先生の小粋なジョークで乾杯が行われた。

この会は教授と学生が1つのテーブルを囲んで普段の講義や実習のときとは明らかに違う「こころだけの話」が交わされる貴重な機会である。また各教授への学生からの質問、それへの回答とまとめた臨床研修質疑応答集

なども配布され、学生にとってはまたとない情報収集の機会である。私も先生方の若い頃の話であつたり、身の上話や医療に対する思いなど、酒を交わしながらさまざまな話を聞くことができた。本年は各テーブルでの談話に加え、くじ引きで当選した教室の先生が自分の教室の宣伝をするというちょっと変わった試みが行われた。運が良いのか悪いのか、引き当ててしまった先生方にはそれぞれ魅力あるトークを披露していただき、また新たに、より明確に各教室のイメージが我々学生に伝わったように感じた。

盛大に行われた一次会はあつという間に終了し、今度はそれぞれの教室



室に分かれて二次会が行われ、学生は自由に参加しそれぞれ楽しんでいました。実はこの二次会、親睦会が行われた日よりかなり早い時期から先生方の交流が深まる楽

しみがあつていいのではないかと思う。ともあれ、この会で長崎大学の一員としての輪を感じ、楽しく過ごすことができた。多忙の中お集まりくださった先生方、このような会を開いてくださった謝恩会の方々、深くお礼を申し上げます。

オランダ・ライデン大学での高次臨床実習

6年 鷲尾 康圭

2011年4月初旬からの1ヶ月間、オランダのライデン大学にて高次臨床実習を行って来ました。実習科は循環器内科で、カテーテルチームとエコー・心電図チームを2週間ずつ実習しました。ライデン大学循環器内科は非常に国籍に富んでおり(台湾、エジプト、ギリシャ、ベルギーなど)コミュニケーションも英語で留学生に寛容だったことや、カンファも冠動脈造影やエコーなど、視覚的に理解しやすいでしたので、結果的に実習先として非常に良い選択だったと思います。私が実習循環器内科を選んだ理由は、TAVI(経カテーテル的大動脈弁植込術)を見たかったからです。4回ほど見る機会があり、症例のポイントやTAVIの現状や今後などを詳しく解説して頂き、大変勉強になりました。カテーテル操作技術は日本の先生方の独壇場のように、日本の医師ならここをCABGではなくカテーテルでいくだろうね、との言葉が印象的でした。また、エコー・心電図では読み方のポイントの指導から始まり、診断レポートを自分で書くほか、3Dエコー、3D心電図、心筋梗塞への多能性幹細胞移植、単純CTでの狭窄度判定などの研究も見学でき、興味深いものばかりで興味が尽きませんでした。言葉ですが、もちろん典型的な日本人の例に洩れず、私も英語が不安でしたが、医療用語は同じなので病院では問題無いですし、プライベート

でも日本語学科の学生との交流もあるので心配無用でした。何より飛び込んでみるのが大事だと思います。ライデン大学で日本語(習得最難言語の一つ)を学んでいる学生に語学の秘訣を聞いたところ、その国に行くとどっぷり肩までその国の文化に触れて、何より毎日飲み会をすることかな。とのアドバイスを頂いたので、毎日一生懸命飲み会を頑張りました。という風にはいかず、夜遅くまで慣れない言葉と環境で疲れ果てて家路につくという毎日でしたが、とても楽しい毎日でした。病院では疾患というより「身体」に対する考え方の違いを最も感じました。が、言語や宗教、習慣、考え方などの文化的な背景の違いに困惑することも多かったです。良し悪しはありましたが、その日本と、また自分と違うところ、に気づけたことは大きなものでした。大変、良い出会いや気づきがあったように思います。

私たちは長崎大学病院で臨床実習を行います。殆どの場合は他の病院を十分に見る機会がなく実習を終えてしまいます。ぐびろが丘第3号にて4年生がリサーチセミナーでの報告を行っていますが、海外に限らず他の病院や大学で実習を受けるというのは大変貴重で良い経験だと思います。他所を見て感じることや、様々な新しい環境や刺激に触れることで、当たり前だと思っていた習慣や考え方、環境について



《幹部を去るもの達の集い》

さてさて、西医体も終わり、幹部が交代する部活も多いでしょう。そんな元幹部達のこの1年の感想なんかを話し合ってもらいましょう。

ぐびろちゃん (以下g)：いやー幹部もついに終わるよね…はあ…

良順くん (以下r)：早かったような短かったような…てか、この一年どうだった？

ぼんぺちゃん (以下p)：いや、ほんといろいろあったよ。

g：何が一番大変だった？

p：自分の考えを人に伝えることかな。

r：ああね！俺も「なんて言ったら1番皆が理解してくれるかな」って無駄に時間かけて考えたりしたなー。

たろうくん (以下t)：でも、結局伝わらなかつたりして…先生もこんな感じやったんかな？

p：先生！？(笑)でもわかるかも！先生も、どうやったら生徒にわかりやすく伝わるか考えて授業しているんだよね…

t：でもいざ授業したら生徒の過半数が寝るっていう…Hahaha！！

g：えっ、うちの部員は寝ずにちゃんと話聞いてくれてたよ

t：いや、うちの部活がみんな聞いてないって言うてるんじゃないで、俺がちゃんと考えてたっていうのを言いたかっただけで…

r：まあ、そんないいから。でも、幹部やったことで得るものもすごくあったよね。

t：それはもう、OBの先生達にはおいしいごはんに連れてってもらったし(笑)

r：現金やなお前は。そうじゃなくて、もっとなんかあったやろう。

g：そうだよ、キャパが増えたとかさ。

p：確かに！下級生のころは見えなかったことが見えてきたよね。

r：今まで先輩たちがいかに時間と労力をかけて部活を引っ張っていったか今になってわかるよね。

t：先輩ごめん、あの頃陰口たたいたりして…

p：ほんと今まで以上に視野を広く持てるようになったよね。

g：まあ、スペースもなくなってきたし、最後に新幹部にメッセージでも残しますか？

r：そうしましょう！どうtさん。

t：まあ、頑張れ！

p：もう、幹部終わってすっかり適当になっちゃって！

g：じゃあ、rさんは？

r：何回も挫折を経験すると思うけど、そういう時って人が一番成長するからさっ！

p：どや顔～！まあ、もう一度やれって言われたら絶対いやだけど、やってよかったとはほんとに思うから、後悔しないようにね♪

g：えー私はもう一回したいけど。幹部の経験って絶対将来に役立つから、つらいことがあっても乗り越えてね。

t：いつか幹部のつらさを肴に飲もうぜ

g：そんなネガティブなことばかり言わないで。なんかあったら前幹部に相談してね。

全員：頑張るって～！

サークル紹介

弓道部



皆さんこんにちは、医学部弓道部です。

？弓道部ってどんな部活？

長崎大学医学部弓道部は、現役部員五十六人(男子三十一人、女子二十五人)で医学部でも随一の大きさを誇る部活。北は北海道から南は沖縄まで、全国各地から集った個性豊かな部員達で構成されています。

？弓道部の魅力って？

まずなんといっても部員の仲がいいこと！弓道部では、男・女、医学科・保健学科が一緒に練習します。楽しい雰囲気

ができるようになっていきます。朝の爽やかな空気の練習するもよし、夜の厳かな静けさの中練習するもよし、恋にバイトに勉強に励むもよし、で、正規練習以外は基本自由です。



どんどん上達しているの、新しく始めやすいといえると思います。

？そもそも弓道って？

最後に、弓道について軽く説明させていただきます。

ます。射法八節という基本動作にのっとり、弓を用いて二十八メートル先にある直径三十六センチの的に向かって矢を放ちます。普段の練習では一人一回四本ずつを四回、計十六本引きます。よく「真ん中に入った点数が高いの？」と聞かれますが、基本的に刺さった場所は関係なく、的中数(＝放った矢のうち何本中ったか)が重視されます。とはいえ弓道の最高目的である真善美の実現のためには、的中だけではなく心技体、それぞれの鍛錬が必要となります。

最後になりましたが、限られた紙面でスペースを頂いたことに感謝して、部活紹介を終わらせていただきます。ありがとうございました。



正規練習は月・水・土の週三回二時間ずつ、医学部グラウンドの隅にある弓道場で行われていますが、この時間以外でも、毎日自主練習

の中で、学年の垣根なく射を見合って練習するの、みんな仲良し♪射について熱く語りあい信頼関係を築いている姿もよくみられます。

弓道以外にも部活後の食事、映画、ドライブ、呑み会、海、遊園地、温泉、花火、スキー、野球、サッカー、狩り、etc…と色々なこと、色々な場所で交流を深めています。

上下の仲がよく、先輩から資料や情報がもらえるので、テスト対策がばっちりなのもうれしい所。

また、単純に弓道が楽しいです！試合や昇段審査など、目標となるものが色々ありますし、袴や足袋など、和文化に触れられるのも魅力の一つ。矢の的を射抜く小気味のいい音に心を奪われる人も多いです。

武道というとなかなか聞かれますが、部員のほとんどが初心者から始めて



サークル紹介

美術部



こんにちは。
今回、医学部美術部を紹介させてもらえる場を頂き有り難く思います。

私たちは医学部美術部は2007年に創部したばかりの新しい部活です。

部員28名で春・秋の年二回の学内展示会の発表に向けてそれぞれが個性豊かに創作活動しています。

水彩画、油絵、鉛筆画、貼り絵、鑄造、陶芸などジャンルは幅広く活動しています。

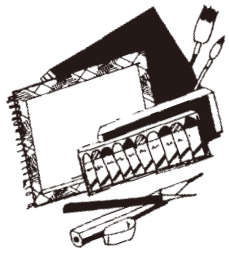
この場で部員作品をいくつか紹介させて頂きます。



「あたたかく、豊かな胎内」
小森結花（卒業生）



「雨上がりの温かな町並み」
谷口育昌（医学科5年）



◎第50回九州山口医科学生体育大会結果報告

バレーボール	男子 予選リーグ3位 トーナメント1回戦敗退		女子 初戦敗退
バスケットボール	男子 予選リーグ敗退		女子 準優勝
卓球	男子団体 2位 男子個人 シングルス 3位 池田貴裕 ダブルス 3位 池田・河西組		女子団体 3位 女子個人 シングルス 3位 有田美里 ダブルス 優勝 有田・芝組
バドミントン	男子団体 3位 男子個人 新人戦シングルス 優勝 本多貴一 ベスト16 末原照大 ダブルス ベスト8 金本・石川ペア		女子団体 4位 女子個人 シングルス 3位 神田 萌 ベスト8 浦壁彩那 ベスト16 堀 麻美 ダブルス 優勝 浦壁・神田ペア ベスト16 森・堀ペア
剣道	男子団体 3位 男子新人戦 敢闘賞 手賀丈太 松尾逸平		女子団体 3位 女子個人 3位 松本愛世 3位 溝口千乃
空手道	男子個人形 優勝 増田太郎 2位 下村太郎 男子個人組手 優勝 下村太郎 4位 増田太郎		女子団体組手 4位 女子個人組手 優勝 池田千鶴
弓道	男子団体 準優勝 男子最多的中賞 結城光太郎 男子個人 準優勝 結城光太郎		女子団体 優勝 女子最多的中賞 山下真理子 女子優秀射技賞 山下真理子
準硬式野球	優勝		
ラグビー	二回戦敗退		
サッカー	入賞なし		
硬式テニス	準優勝		入賞なし
ソフトテニス	男子団体 4位 男子個人 優勝 脇園・町田組 ベスト4 島矢・田中組 ベスト16 池辺・中嶋組		女子団体 5位 女子個人 ベスト16 竹内・高口組 ベスト16 森・松尾組 ベスト16 高村・安永組
水泳	男子 2位	女子 3位	総合 3位
ボート	【男子4+】 鵬翼 2位 崎陽 2位 【男子1×】 菊田 3位		総合 3位
ウインドサーフィン	テクノクラス 40位 池田知聡 43位 迎 裕太	オープンクラス 14位 澤田雅志	
陸上	男女総合 2位	男子総合 3位 男子3000m S C 優勝 西口亮	女子総合 1位 女子400m 優勝 樋口真帆 女子走幅跳 優勝 堺桃子

《学生の声 in 目次箱》

今回はいろんな学年にインタビューという形でやってみました！
ゲストも何人か来て頂きました！

@1年生にインタビュー

H：入学して数ヶ月立ちましたが、入る前と入った後で印象の違いはありましたか？
 1：医学部といっても1年は暇なんじゃないかと思っていたら、思ったより忙しかったです。
 2：座学が続くのかなーとおもっていたら二回も病院実習、入って1ヶ月であったからびっくりしました。試験前はゲームとかもしなくなったり。
 1：まあでも基本暇だよな。
 A：講義の内容とかはどうか？
 1：セルバイ（細胞生物学）ヒューバイ（人間生物学）以外はつながりのない講演会のような講義が多くて… いや、でもよかったです。
 A：素直に言っているよ（笑）
 2：講義はきいてるだけという感じで、質問しにくい雰囲気ですね。
 H：面白くなかった？
 2：あ、いや、興味がある内容ならいいんですけど、とにかく90分聞いてるだけというのはつらかったですね。
 H：まあ慣れだよな。
 1：そうじゃなくても純粋に難しいですね。
 内容が重たくて何をどう質問していいのかもわからないことがしばしば…。

E：大学入ってよかったこととかある？
 A：友達できたとかはなしで！（笑）
 1：本がだいぶ読めるようになりました。図書館の蔵書が多いので。
 A：時間もたっぷりあるしね。
 2：みんな頭がいいから勉強の話とかの相談できて、お互い勉強になっていいですね。はかどり方が違う。
 E：マジか。すごいな医学部。
 H：ちょっとここ太字にしときましょう（笑）

E：今の学生生活はどうですか？率直に聞かせてください。
 1：今ぐらいの忙しさはけっこう好きですね。充実してる感じがして。部活も、勉強もあって無為に過ごしてる感じがなくて。
 2：忙しいけど暇を感じるゆとりがあるぐらいの。
 E：結構満足できてる感じかな？
 1：いやまあ嫌な授業は本でも読んどけばいいかなと（笑）
 2：僕はまだちょっと生活面で慣れていなくてリズムを崩してしまったので、後期はきちんとしていきたいですね。
 H：これから期待することはある？
 2：解剖実習は楽しみです！
 H：医学部っぽいよね。
 1：病院実習ではできなかったことや、わからなかったことをこれから学んでいきたいです。
 S：あの時期の病院実習って1年生的にどうなの？何もわからなくない？
 1：先生方が説明してくださって、質問もどんどんできる雰囲気だったので、むしろ講義よりわかりやすかったです。
 2：僕の場合、運悪く二回とも消化器で内視鏡見学ばかりだったので他のこともしたかったですね。
 E：なるほど。意欲にあふれた1年生の意見、ありがとうございました。

@6年生にインタビュー

これまでの学生生活はいかがでしたか？
 Y：何か素敵な出会いはありましたか？
 E：いやー特にそういうのは…
 H：我々の存在は特に重要ではないと。
 E：ええまあ…
 A：そうですか。じゃあ次の話題に。
 E：ちょっと！冗談ですよ！
 H：6年間で一番心に残った大きなイベントは何ですか？
 E：やっぱり部活動のイベントですかねー。
 どれとは決めきれないけど、部活の大会でチームの皆と一緒に戦ったり、先輩、同級生、後輩の皆と遊んだり飲んだりですね。
 A：メディア部に関しては何もないと…
 E：ええまあ…
 Y：（スルーで）やりのこしたこととかはありますか？
 E：すみません（涙）この新聞にリレー小説とか、W先生主人公の4コマ漫画とか、低空飛行学生へのインタビューとか、いろいろ載せたかったですね。
 誰かやってください。
 A：最後に質問なんですが、ぶっちゃけこれから半年間マジメに勉強しますか？
 E：するに決まってるだろ！（汗）… たぶん おそらく きっと。
 一同：6年生ありがとうございました（笑）

@2年生にインタビュー

H：勉強はどうか？
 N：解剖は〇〇とか…。
 A：誘導すんなよ！
 N：ipad欲しいとか…。
 A：何の関係もねえよ！
 3：（笑）そうですね…っていうか、思ったほど勉強しないですよな。
 N：おいやめろ来年大変なことになるぞ！
 3：いや俺が言うのもなんなんですけど、マジメな話そもそも講義があまり勉強させる雰囲気じゃないですよな。
 本当に聴かせる気あるのかって感じがするし。
 H：勉強させる雰囲気…そうだねえ。最悪、試験前に0からスタートになっちゃうしね。
 3：授業評価シートも大体適当に全部左端に〇つける感じですよな。だから結局何も改善されない。

その後、3氏。講義に関して以下のような内容を熱弁。
 「スライドはダメ！スライドばかりの講義は学生も教員も堕落させる」
 あんなペースでめくられてノート取れるわけないし…。
 図とかはいいんですけど、要点は板書で書いて欲しい。
 書くことによってどこが重要なかわかる。
 「難しいことを難しく説明しないでほしい」
 のべらした授業形態、イントロなしに入る本題…重要なところがわかりにくい！
 また、強調されてないところが試験に出たりする。

H：大学は入る前と入った後で何か印象が変わったことはある？
 3：結構いろんなところに遊びに行けますね。浪人生活してたころと比べるとギャップがありました。
 N：失望したところは？（笑）
 3：ああ、やっぱり出席用紙は微妙ですよな。それより、学生が聞きにくるような講義を心がけて欲しいですね。
 あと、6年間のイントロが悪すぎる。医学部に期待して入学してきたのに、1年の初めからよくわからない講義受けないといけないし…
 「〇〇は〇〇から」と「〇〇〇〇概論」ってあの二科目せめて教養に回せないんですか？みんなあれでいいやんかきくすよ。
 H：長大医学部の良かったところってある？
 3：んー…ここで会った人たちがみんないい人達だということですね。
 E：えー、2年生の生のご意見ありがとうございました。

@5年生にインタビュー

E：最近離島実習に行った5年生に話を伺ってみましょう。
 A：離島ならではのよかった点はありましたか？
 H：診療所の実習で、医療区域の届かない僻地に関しては公民館を利用した出張診療所を開いていて、離島ならではの医療を見ることができました。
 S：でも大きな病院の医療水準とかは意外と本土と変わらないよね。どこもかしこもDr.コトーってわけじゃない。
 A：他にはどうでしょうか？
 N：五島の飯はうまかった。景色もいいし、観光名所もあるし。
 4：うどんや魚は安いし、先生におごってもらえるし、快適な生活やったで。
 E：離島実習とは何だったのか…。
 A：逆にこれはいらんだろーっていうものは？
 H：老人福祉施設は3年生の医と社会でやる内容と丸かぶりでした。
 S：わざわざ五島に行ってやる意味あるのかな、あれ。
 4：健康講話と芸だしはやりたくなかったわ…。
 N：まあ、それはしょうがなくね？っていうかただのわがままじゃん（笑）
 E：薬学部、歯学部との共同実習に関してはどうだったかな？
 H：それぞれ何をやってるかよくわからなかったんで、実習中はあまり関わられませんでしたけど、友達にはなれました。
 （本土に）帰ってきてから二回も飲み会やりました。
 A：4はどう？
 4：まあええんちゃう？…リハビリになったし。
 E：コミュニケーションのか（笑）
 H：班の人とは仲良くなった？
 4：せやな…。
 E：5年生、ありがとうございました。

メディア部では様々な「学生の声」を募集中です。
 学生生活で日々思っていること、ぶっちゃけてみませんか？
 またインタビューや座談へ参加してみたいなどの要望も随時受け付けております！
 ぜひ体育支援センター前の目次箱に投函、もしくは ryojun-do@med.nagasaki-u.ac.jp までメールお願いします！
 （文責：江原）

編集後記

国家試験偏重が悪いのか。コアカリキュラムに沿った講義や試験が悪いのか。それともすべては国試に受かってからの話で、勉強は予備校のビデオ講座で事足りるのか。学生は大学において何を学ばないのか。我々学生は考えなければなりません。試験対策という現実と向き合いながら。卒業試験真只中の江原でした。
 （江原大輔）

おかげさまでこの度第四号を刊行することが出来ました。
 少しずつではありますが、各学年の皆様にも認知されてきているようで嬉しく思います（笑）先輩方からも聞き、また現在己で実感していることですが、この6年間ある医学部生活は意外と短いものになると思います（切実）この短くも楽しい医学部生活の中で感じることを一緒に伝えていける仲間とずっと出会っていきなりたいです。宜しくお祈りします。
 （本田徳鷹）

お久しぶりです。今回もちままと編集に携わらせていただきました。この場をお借りして編集部の宣伝をさせていただきます。
 日々編集員の高齢化が進むメディア部では編集に携わってくださる方を募集しております。このままでは、そして誰もいなくなった」ということにもなりかねません…。紙面の使い方、方向性は自由です。来たれ、若人！
 （山本直毅）

どうも、今回で編集に携わらせていただいた2回目となりました川床です。今回は初めて企画をさせていただきましたが、果たしてこれでよかったかどうか。
 そして、未だに編集後記に何を書いているやら、次はより良いものになりたいのでぜひ意見等よろしく願います。
 （川床健司）

前号以降、いろんな人から「ぐびろ読んでよ」と言ってもらえて嬉しいです。6年生は卒試・国試と忙しいと思いますが、卒業後に読んで、「学生生活楽しかったな」と思い出せるようなぐびろにしますので、ぜひ読んでください☆

楽しかった夏休みも終わってついに後期が始まってしましますが、楽しんでいきましょう！
 （小嶋翔子）